

# えぼっく

第3巻1号 通刊17号 2002年4月11日発行  
 合資会社金井書店発行 営業本部編集  
 〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16  
 TEL 03-5996-2888 FAX 03-3953-7851  
 URL <http://www.kosho.co.jp> E-mail [office@kosho.co.jp](mailto:office@kosho.co.jp)

## 再び、チャレンジ!

約半年ぶりの“えぼっく”発行です。毎月発行が目標でしたが、私の力不足で暫し途絶えてしまいました。ご容赦下さい。発行体制を整えるめどがつかしましたので、改めて挑戦して参ります。

昨年、R. S. Booksをオープンして新たな方向性を模索してきましたが、その成果が、これから形になり、皆様にご提供していけることと存じます。金井書店古書目録も再考中でございます。書物をご紹介します基本を忘れることはありませんが、新たなお客様にもアピールできる形を思案中なのです。

書物を取り巻く環境は激変しております。出版社が倒産し、取次店も消えてゆき、中小の書店も消えていく時代です。古書店は元々、零細中小が中心ですので、個々の経営努力により生き延びております。ハイが小さい分、まだまだ拡大の余地もあり得るのです。そう信じて、私は毎日、夢見てこの仕事に従事しています。

幸いなことに、先日も、産経新聞さんにご紹介いただきましたが、古書業界に一つの方向性を見いだしながら仕事が出来ていければ、書物の世界に良い環境が作れていくものと思います。この大前提は、皆様に古書店をご利用頂くことであり、お願い申し上げる次第です。

私たちが努力しなければならないことがたくさんあります。魅力ある商品を集めることもその一つです。自分自身が振り返っても、集める努力が足りない反省をしています。10年20年私どもの倉庫に眠っていた資料を掘り起こしておりますが、整理して“ドキドキ”するものがあります。人気テレビ番組で“お宝”が飛び出しますが、貴重な資料・書物はまだまだたくさんあるのだと痛感します。更に、その価値観を知らせていかなければならないことを痛感しています。

私の性格は、どうも、一寸したことで新しいことを取り入れないと気が済まないようです。新しいことすべてが“良いこと”で有ると思っておりますが、金井書店としては、色々な形でお答えしていきたいと考えております。3店舗の形態もそれぞれの特徴があり、目録、古書展、インターネットなど、工夫して参りますので今後ともお引き立ての程宜しくお願い申し上げます。

金井書店グループ営業本部 花井敏夫  
 スタッパー同

## 【洋画のはじまり】

春がやって参りました。表に出れば陽射しの眩しさが心地よく、元気が湧き出てくるのを感じます。私に元気をくれるのは、そんな自然の力だけではありません。何かが始まる時、始める時の力を感じませんか。自分を奮え立たせて、何かをやるうと頑張る、そんな力が世の中に溢れる時期でもあります。



これから日本での洋画創世記について、お話ししていきますが、一般的にその出発点とされる明治時代の西洋の思想や生活様式を積極的に取り入れた風潮は、まさに動力が動力を呼ぶ元気に満ちていました。油絵の具を使うにしても、チューブを捻れば顔料と油が練り上げられたものが簡単に手に入る今の時代とは訳が違います。新しいもの始める時というのは動かす力、人一倍の原動力が必要なものです。そんな明治の活動を紹介できたらと思います。

### <洋画のはじまり>

明治初期の文明開化という風潮は、美術においても混沌とした状況を生んでいきました。洋画と言われるものが確立する以前は材料も自家製、もちろん本格的な技法が学べたわけでもなく、洋風な趣向をなんとなく感じさせる絵画が多くありました。そんな状況下ある秩序を与えるべく、ひとつの政策が打ち出されました。明治9年、国の正式決定により美術教育機関である工部美術学校が設立されたのです。その画学科で教鞭をとったのが、イタリア人フォンタネージと言う人物です。彼がそこでヨーロッパの伝統的な学習方法を教授したことと、彼自身の画風に「落穂拾い」で有名なミレーらパルピゾン派の影響を受けていることは、風景写生を重視するなど、学生に少なくとも影響していきました。浅井忠の絵画を見てください。彼はここで学んだ学生でしたが、この傾向に最も感化されて、いわゆる逆光で茶褐色な画面と後に言われるの絵画表現を成し得た人物と見てよいでしょう。

明治20年代になると新しい動きが起こって

きます。浅井忠らの活動とともに洋画の展開に多大な努力と成果を残したもう一つの流れとして黒田清輝の活躍は目覚ましいものがあります。彼はフランス系の絵画を日本に導入していった人物として知られていますが、当然のことながら、周辺の人物の力との相互作用によって一つの大きな動きになったことは言うまでもありません。そのあたりの事情を少々見ていきたいと思います。



### <フランス印象派の影響>

黒田清輝と久米桂一郎がフランスから日本に帰って来た事によって、フランス絵画の本格的な移入が始まったと言われてます。黒田や久米が渡仏し師事していたのは、ラファエル・コランと言う人物で、彼に伝統的な学習方法を学ぶとともに、当時フランスで主力となっていたモネら印象派の強い影響を受け、彼らは日本に帰ってきます。印象派についてはバックナンバーを御覧ください。

明治26年帰朝した黒田と久米が日本で行った最初の活動は、山本芳翠が経営していた画学校を引き継ぎ、「天真道場」と名付け、指導者となっていったことでした。そこには藤島武二、岡田三郎助、和田英作ら後に世に活躍した錚錚たる面々が集まって来ました。そこでの目的はフランス印象派の傾向でもある外光描写に関する飽くなき探求にあり、その表現のためにフランスで学んだものが基になった新しい絵画技法と学習法が行われ、朱が印象的で華やかです。結果として画面に明る



さが生まれ、この明るさは以前の暗い画面の絵画中心の展覧会の中では酷評さ

れますが、その新鮮さが当時の人々の人気を獲得していったと言われています。

### <白馬会の結成>

明治29年になると、黒田たちは新団体の結成に乗り出します。そうしてできたのが「白馬会」と言われるものです。「白馬会」の名称は麻布の濁酒やで会合をして相談したことを記念し、当時濁酒のことを「シロウマ」と呼んだのにちなんで、白馬を飲みながら相談がまとまった会というところから決めたとある本には書いてありました。集ったのは黒田、久米はもちろんのこと山本芳翠や先に述べた天真道場に参加した顔ぶれが主です。

設立の趣旨もなかなか興味深いものがあるので、紹介しておきます。「自由を第一義とし、会員は平等で、会頭や幹事の設置も無く、平常は会費を徴出せず、展覧会費用のみ会員分担制とし、展覧会は会員が我物として骨を折り、出来るだけ立派にやる。」こんなところにもフランス流が表れてきているようです。

彼らの展覧会は世に広く受け入れられていきました。この展覧会に関する美術批評なるものが新聞に掲載され、雑誌に取り上げられ、瞬く間に日本の洋画においての体制制となっていったのです。白馬会が結成されてすぐ東京美術学校の教授として黒田清輝と久米桂一郎が迎えられ、助教授に藤島武二と岡田三郎助が抜擢されたことから知られることができます。

藤島自身が「本当に洋画を研究したのは美術学校助教授になってからである。」と言ったように、作品の製作が本格的に始まったのはこれ以降のことです。この時、藤島は29歳、黒田は30歳です。白馬会自体は15年程で解散していきます。黒田清輝「湖畔」藤島武二「天平の面影」はこの間に描かれたものです。

こうした活動がきっかけとなって、黒田たちの活動がいわゆる日本洋画のアカデミズムを形成した功績は大きく、不断なる努力に努力を重ね、作風を変貌させ、生涯通じて絵画を成して行ったことは、大変素晴らしい事だと思



今年は何年にもなく、早くに暖かい日が咲いた。時々の柳絮をやるのに困ってしまふ程ですが、お花やお鳥にお話してしまふか?

突然ですが、皆様は今、何か趣味をお持ちでしょうか? 趣味の幅も広がってほしいですね。趣味の幅が広がると、生活が豊かになります。趣味は、心を癒し、ストレスを軽減してくれます。趣味は、自分自身を表現する機会でもあります。趣味は、新しい友達を作る機会でもあります。趣味は、人生を楽しくしてくれます。趣味は、人生の光輝をくれます。

八重洲古書館 石川みどり

**R.S. Books**  
 RETRO REVALUE RECYCLE

ゆったりとした空間と、満ちあふれる古書。時代を刻んだものとの素敵な出会いを愉しめる、新しい形のブックショップです。

TEL & FAX 03-5204-2888

http://www.kosho.co.jp

TEL & FAX 03-3272-2888

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街

# 20世紀写真&ファッション写真

男性が、永遠に憧れてやまないものはなんですか。また、女性は・・・？その答えは、不老不死の妙薬にあるのでしょうか。古来から、権力者は、不老不死の妙薬を手に入れるために、あらゆる努力を惜しみませんでした。日本に残る除福伝説もそうです。男性の権力者が、それを求める場合、多くは、「権力」や「精力」への執着にありました。一方、女性の場合はというと、「若さ」や「容色」が衰えることへの恐怖がその根底に潜んでいました。

多くの女性にとって、美しくなりたいという欲求は、とても強いものです。また、そのために、研究し、努力することは、何にもまして優先されるものでもあります。ダイエット、ジム、エステ、美容院、化粧、服、アクセサリ・・・

その中でも、ファッションに対する関心は高いようで、書店の店頭を賑わしている女性誌の特集を見ると、ファッションに関する情報の多さに、目を奪われます。また、ファッションを主体としている雑誌そのものの数も、決して少なくありません。旬の情報を最も早く届けてくれる雑誌は、美しいグラフィックページがその大半を占めます。様々な場所で、美しく装い、多彩な表情を見せるモデルは、もしかしたら、女性の永遠の理想そのものなのかもしれません。

そんなファッション誌の中でも、常に流行の先端をゆき、世界中の女性の憧れを誘ってやまない雑誌「VOGUE」。そして、「VOGUE」を支えてきた、ファッション写真家、その中でも、この度、東京大丸のミュージアムにおいて、展覧会が開かれる「ヘルムート・ニュートン」。この2つのキーワードに沿って、今回は話を進めていきたいと思えます。

「VOGUE」の歴史は、1892年にはじまりますが、その頃はまだ、挿絵を中心としたものでした。「VOGUE」が大きく変わるのは、1909年、まだ歳若い人の青年によって買収されたところからです。

この青年「コンデ・ナスト」によって、「VOGUE」は、週刊の社交誌から、世界一のファッション誌へと変貌を遂げてゆくこととなります。当時は、未だ写真よりも挿絵の方に重点がおかれていたが、彼は、写真の重要性をいち早く気付いており、いつの時代も、最高の写真家を求めてやみませんでした。例えば、一番最初は『アドルフ・ド・マイヤー男爵』、それから『エドワード・スタイケン』『セシル・ビートン』『ホイニゲン・ヒュネ』『アーヴィング・ペン』『リチャード・アヴェドン』『ウィリアム・クライン』『ヘルムート・ニュートン』『ブルース・ウェバー』などなど、とてもすべては書き切れませんが、「VOGUE」の歴史は、彼らファッション写真家の歴史でもあるのです。彼らは、それぞれに個性的なカメラマンであり、革新的なアーティストであり、また、時代を映す鏡のような存在でもありました。

球陽書房  
JR中央線高円寺駅  
杉並区高円寺北3-22-2  
本店 Tel.03-3338-0875  
人文書系&雑誌  
分店 Tel.03-3338-1594  
沖縄関係書充実



時代を追って「VOGUE」をみてゆくと、様々な変化が読み取れます。分かりやすいのは、肖像画に近いポートレートから、だんだんと動きのある写真へと変わってゆくこと、肌の露出の度合い、背景や小道具の変遷などでしょうか。しかし、私が最も注目したのは、モデルの表情とポーズです。初期の頃は、いかにも上流階級とおぼしい上品で優雅な表情や、アルカイックスマイルのような、ひかえめな微笑みに、清楚に行む様子がほとんどでした。それが、時代を経るごとに、いつしか彼女達は、微笑むのをやめ、立ち尽くすのをやめてゆきます。そこから感じられるのは、凛とした意志と人間性です。感情を露にした瞳や、思い思いのポーズ。女性が社会の

ろからです。この青年「コンデ・ナスト」によって、「VOGUE」は、週刊の社交誌から、世界一のファッション誌へと変貌を遂げてゆくこととなります。当時は、未だ写真よりも挿絵の方に重点がおかれていたが、彼は、写真の重要性をいち早く気付いており、いつの時代も、最高の写真家を求めてやみませんでした。例えば、一番最初は『アドルフ・ド・マイヤー男爵』、それから『エドワード・スタイケン』『セシル・ビートン』『ホイニゲン・ヒュネ』『アーヴィング・ペン』『リチャード・アヴェドン』『ウィリアム・クライン』『ヘルムート・ニュートン』『ブルース・ウェバー』などなど、とてもすべては書き切れませんが、「VOGUE」の歴史は、彼らファッション写真家の歴史でもあるのです。彼らは、それぞれに個性的なカメラマンであり、革新的なアーティストであり、また、時代を映す鏡のような存在でもありました。

# 日本の古本屋

中で解放されてゆく様が、とても良く分かります。それらの過程で、ファッション写真にはじめてヌードを持ち込んだのが、『ヘルムート・ニュートン』です。彼は、『VOGUE』においても、センセーショナルなカメラマンのうちの一人に、必ず数え上げられる人物です。

「ヘルムート・ニュートン」は、1920年生まれで、現在も現役のカメラマンです。彼は、第一次世界大戦直後のドイツ・ベルリンに、裕福なユダヤ人家庭に生まれました。12歳にして自分のカメラを持ち、撮影を始めたというのは、いかに恵まれた家庭に育ったとはいえ、やはり早熟だったのでしょう。その後、ファッションと演劇を専門とした女性カメラマンに師事しますが、その後、中国からシンガポールを経てオーストラリアへと移住することになります。第二次世界大戦直前のドイツにおいて、ユダヤの血を引くということが何を意味するのかは、歴史にさほど造詣が深くないという人でも、容易に想像がつくことでしょう。しかし、そうした経験そのものが、彼の精神、ひいては彼の写真に大きな影響を与えたように思えます。戦後は、メルボルンにスタジオを構えますが、1956年にはロンドンへ、その2年後にはパリへと活動の拠点を移してゆきます。彼が、ファッション写真を本格的にはじめるのは、この頃からです。以後、「VOGUE」をはじめとして、「ジャルダン・デ・モード」「イル」「マリ・クレール」といったファッション各誌で活躍するとともに、「プレイボーイ」や「ウィ」などの男性を対象とした雑誌にも、ヌード写真を発表してゆきます。1970~80年代にかけては、写真集を多数発表するとともに、精力的に個展を開いています。



彼の写真は、計算された美しさがあります。ヌードを写していても、服を着た姿を写していても、必ず彼の強固なまでの意志が感じられます。装置、小道具、光線、そして、モデルの選択からポーズに至るまで、ありありと作爲が感じられるのです。しかし、そうして写された写真

# 古書 金井書店

を見ると、これこそが一番ふさわしいものだと、わけもなくそう思ってしまうなかで、彼の写真にはあるように、私には思われるのです。

先述したように、4月11(木)~23(火)まで、東京大丸で、「ヘルムート・ニュートン写真展」が開催されています。多くの言葉を費やすよりも、数点の作品に触れる方が、はるかに実感できるはずで、少しでも興味を持たれたなら、足を運んでみるのも良いかもしれません。



写真は、望むと望まざるに関わらず、被写体のすべてを写します。満面の笑みを浮かべていたとしても、怒っているときは青白い炎の様な怒りが見え隠れしているし、疲れた時の顔はやっぱり疲労がにじんでいるし、悲しい時は、溢れる程の笑顔の向こう

側に、悲哀が漂っているのです。そのことに気付いた時、愕然としたことを、覚えています。ごまかしがきかない、嘘が通用しない、ということは、写真に写る側としては、恐怖に近いものがあります。しかし、それは、とりもなおさず、写真の魅力そのものでもあるのです。だからこそ、人は写真に惹かれ、感動するのでしょう。今回主題としてすえたファッション写真だけではなく、ポートレートも、雄大な自然や、報道写真の数々もまた、目に見える形で写し出された被写体と、その背景にある見えない真実とが、そこに共に在るからこそ、人を魅了する何かがあるのではないのでしょうか。

R.S. Books店頭はファッション雑誌と写真を集めたコーナーを設けてみました。ウィンドウショッピングの帰り道や、写真展の途中に、ふと足を止めて、覗いてみてください。そこには、今までとは違うファッションや写真の世界が、広がっているかもしれません。(文責：川上亜衣子)

★★★★★  
「ヘルムート・ニュートン展」入場割引券が「八重洲古書館」R.S. Books にございます。数に制限がございますのでお早めにご利用下さい。  
★★★★★

小川図書  
千代田区神田神保町2-7  
Tel.03-3262-0908  
英語英文学  
洋雑誌

オランダ屋書店  
大阪府茨木市宮元町2-7  
Tel.0726-25-2317  
大阪北摂エリアに6店舗  
古書目録なんでもアリーナ  
http://www.orandaya.co.jp  
万国博覧会関係在庫豊富



古本 旅の一座  
相模原市相模大野4-5-17  
ロビーファイブF  
Tel.0427-66-4042  
小田急線相模大野駅徒歩5分  
女子大通 / 広い! 80坪  
映画ほか古書全般

八重洲古書館  
TEL&FAX 03-3272-2888  
R.S. Books  
TEL&FAX 03-5204-2888  
〒104-0028  
東京都中央区八重洲2-1  
八重洲地下街